



第3章

基本方向

第2章で掲げた社会経済の動向と、長岡京市の環境づくりの成果と主要課題等を踏まえ、長岡京市第二期環境基本計画では、10年後に望むまちや市民の姿を基本方向として整理します。

1 エネルギーを大切にすまちづくりを進めます！

東日本大震災の原子力発電所事故を契機に資源エネルギー問題がクローズアップされる中、多くの電力を消費するライフスタイルの改善や、地球温暖化を進める温室効果ガスの排出抑制など、環境負荷の低減につながる取組みを展開し、一人でも多くの市民が持続可能な社会づくりに貢献できるまちを目指します。

そのため、私たち一人ひとりが日々の生活に欠かせないエネルギーについて真摯に向き合い、効率的なエネルギー利用の知恵や工夫を共有するとともに、自立・分散型のエネルギーシステムの導入や省エネルギー活動の普及を進めます。

あわせて、公共施設においては、太陽光発電など再生可能エネルギーの導入やエネルギー効率の高い建築物の整備を積極的に進めていきます。

また、温室効果ガス発生抑制のため、公共交通や自転車の利用促進、電気自動車等の低公害車の導入、エコドライブの普及等に取り組みます。

10年後に望む
まちや市民の姿

省エネの実践や再生可能
エネルギーを使う市民が増える！

2 資源循環型の社会づくりを進めます！

従来の大量消費型の生活は、資源の無駄遣いを増長させ、大量の廃棄物の発生を伴い、環境に大きな負荷を与えてきました。今日では、地球規模での資源の枯渇や廃棄物処理の問題など様々な環境問題が顕在化していることから、排出者/受益者負担の原則による廃棄物の発生抑制を検討します。あわせて、限りある資源の有効利用を進め、環境への負荷ができるだけ小さい資源循環型のまちを目指します。

そのため、市民・事業者が主体的に生ごみの家庭での処理や不用品のリサイクル、ごみの分別の徹底などを実践する一方、行政においては、ごみ減量や分別収集などについて、啓発活動を進めます。また、発生したごみについては、近隣自治体等との広域的な連携のもと、効率的で適切な処分を図ります。

また、急速な都市化に伴う水循環機能の変化への対応や多発する局地的豪雨による浸水被害の発生抑制、水道水源としての地下水の涵養などに対応するため、雨水タンクの設置等による雨水利用の推進や水を大切にするライフスタイルの実践、下水道整備の着実な推進に努めます。

10年後に望む
まちや市民の姿

ごみの量が減り
資源の有効活用が進む！

3 自然環境を守ります！

本市は西山をシンボルとする豊かな緑、たくさんの市民に愛されている小泉川や小畑川など、素晴らしい自然環境を有しています。これらの自然環境は、CO₂吸収や、生物多様性の保全、水源の涵養といった面でも重要な役割を果たしていることから、大切に守り育て、次世代に引き継いでいきます。

そのため、市民、事業者、行政など様々なステークホルダー※が連携し、西山の保全、整備、活用を進めるとともに、特徴ある長岡京市らしい美しい景観を創り出します。さらに、特産のタケノコを産出する竹林についても、適切な保全、維持管理に取り組みます。

また、都市近郊の立地を活かし、農業生産の活発化を図るため、農産物のブランド化や地産地消等の取組みを進め、環境にやさしい農業を推進します。

さらに、うるおいのある水辺環境の保全・再生を図るため、身近な河川・水路の適切な維持管理に取り組むとともに、ホテルをはじめとする水生生物の生息環境の保全・整備を進めます。

10年後に望む
まちや市民の姿

適切に維持管理された
森林・竹林が増える！

4 快適な都市環境を創り出します！

本市においては、東部を中心に都市化が進展し、交通渋滞の発生や渋滞に伴うCO₂排出量の増加、緑空間の減少など、都市特有の環境問題が散見されます。今後、市民が気軽に緑にふれあい、楽しむことができ、環境に配慮された基盤が整った都市アメニティの高いまちをめざします。

そのため、今あるまちなかの貴重な緑の保全を図る一方、公共空間や民有地など様々なオープンスペースでの緑の創出、公園の整備を進めます。また、これらの緑について、「公益財団法人長岡京市緑の協会」と連携し、市民、事業者の手による適切な維持管理の輪を広げていきます。

中心市街地における都市づくりにおいては、再生可能エネルギーの導入やバリアフリー化、歩行者優先の道路づくりなどを進めます。

さらに、西山や西国街道などの個性ある資源を活かした景観の形成、町家等の歴史的資源の保全・活用を進めます。

一方、快適で心地よく生活できる環境の維持・保全を図るため、環境美化の推進や騒音・水質などの環境調査を実施します。

10年後に望む
まちや市民の姿

緑が多く、環境に配慮された
まちづくりが進む！

※ステークホルダー……利害関係者

5

協働・環境学習・エコアクションに自ら取り組みます！

地域の担い手である市民の活動が活発な本市では、環境分野においてもたくさんの市民団体が活動しています。事業者においても環境に関する取組みが積極的に行われており、今後も市内で活動されている市民や市民団体、事業者、そして行政が役割と責任を果たし、協働・連携する中で、各主体のエコアクションの実践の輪を広げ、環境活動の盛んなまちをめざします。

そのため、長岡京市をフィールドに活動する各種団体のネットワークを強めるほか、各種団体活動への支援を行います。

また、環境活動を担う人材の育成を進めるとともに、環境と経済の好循環を生み出すため、エコストア[※]認定の推進や環境地域通貨の導入を図ります。

さらに、次代を担う若い世代をはじめ、エコアクションを実践する市民の輪を広げるため、環境への知識・興味を育み、体験型の環境学習や啓発型の環境イベントなどの取組みを進めます。

そして、これらの市民・団体の主体的な活動の一層の発展をめざし、資源や技術のネットワーク・コーディネートなどを行う中間支援組織の母体となるプラットフォーム[※]づくりを進めます。

10年後に望む
まちや市民の姿

主体的に環境活動に関わる
市民が増える！

※エコストア……本市において、ごみ減量化・再資源化運動の展開、環境保全型ライフスタイルの創造を図っていくための取組みに協力していることを認定している店舗または事業所。

※プラットフォーム……何かの行動を起こすために基盤となる場のこと。本計画では、多様な主体が連携して行動を共にしていくための連絡・協議等を行う場という意味。